

第98回日本泌尿器科学会総会 メンズヘルスセミナー 2010

2010年4月29日(木) 18:00~19:30

いわて県民情報交流センター・アイーナ 812会議室

主催 日本 Men's Health 医学会・第98回日本泌尿器科学会総会
共催 日本臨床泌尿器科医会
大塚製薬株式会社・グラクソ・スミスクライン株式会社
武田薬品工業株式会社・日本新薬株式会社

盛岡藩家老、北家の屋敷跡にある「石割桜」。庭石の割れ目に桜の種が飛んできて芽を出し、成長とともに石の割れ目を押し広げていったものと言われている。大正12年、国の天然記念物に指定。
写真：(財)盛岡観光コンベンション協会

❖ プログラム ❖

- 18:00~18:05 開会の挨拶 熊本 悦明 先生 (日本 Men's Health 医学会理事長)
- 18:05~18:35 「テストステロンはコミュニケーションの要」
座長：堀江 重郎 先生 (帝京大学医学部附属病院泌尿器科教室主任教授)
演者：坂口 菊恵 先生 (東京大学教養学部特任助教)
- 18:35~18:45 質疑応答
- 18:45~19:15 「前立腺肥大症 / 癌と5-alpha reductase/5-alpha reductase inhibitor」
座長：並木 幹夫 先生 (金沢大学大学院医学系研究科教授)
演者：塚本 泰司 先生 (札幌医科大学医学部泌尿器科学講座教授)
- 19:15~19:25 質疑応答
- 19:25~19:30 閉会の言葉 奥山 明彦 先生 (大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学教授)

テストステロンはコミュニケーションの要



坂口 菊恵 先生 (東京大学教養学部特任助教)

自閉症、学習障害、ADHD など発達障害や精神疾患の多くは発症が男性に偏っており、性ホルモンの関与が想定される。コミュニケーション能力障害の発生メカニズムとして近年注目されているのが、自閉症の「超男性脳」仮説である。男性と女性の関心や認知能力の違いを集団レベルで比較すると、男性はものごとのはたらくルールを分析しようとする「システム化」能力、女性は他者の心の状態を予想して、それに対して適切な感情で答えようとする「共感」能力に優れる傾向がある。自閉症者は共感能力の発達に問題が見られる一方、システム化能力に秀でるといった特徴がある。また、脳梁が小さかったり、大脳の容積が大きかったりするなど、自閉症者の脳には形態的にも男性の脳の特徴を極端にしたような傾向が見られる。

ヒトの中枢神経に対する、男性ホルモンの組織的効果は胎児期に臨界期があるとされているため、胎児期の性ホルモンバランスと社会的認知機能との関連を検討する研究が多数行われてきた。胎児期に男性ホルモン濃度が高いとコミュニケーション能力の発達が悪いことを示唆する報告を紹介する。一方で、自閉症と逆の方向性でホルモンバランスが崩れていることが示唆される疾患として統合失調症の発生モデルを紹介する。

<略歴>

2003年池見東京医療専門学校非常勤講師。2004年日本学術振興会複合新領域・ジェンダー特別研究員 (DC1)、2007年同特別研究員 (PD)。2007年東京大学大学院総合文化研究科認知行動科学大講座博士 (学術) 修了。2008年専修大学非常勤講師 (文学部 比較行動学)、2009年早稲田大学非常勤講師 (文化構想学部 人間の発達と進化)。現在に至る。

専門分野は、進化心理学、内分泌行動学。最近の主な研究テーマは、「配偶戦略の個人差と関連する内分泌学的要因」。

前立腺肥大症 / 癌と5-alpha reductase/5-alpha reductase inhibitor



塚本 泰司 先生 (札幌医科大学医学部泌尿器科学講座教授)

5-alpha reductase (5AR) が前立腺肥大症あるいは前立腺癌の発生および進展に深く関与していることは知られているが、その関与の詳細に関しては依然として不明な点が少なくない。したがって、その阻害薬である 5-alpha reductase inhibitor (5ARI) がこれらの疾患に対してどのような意義を持っているのかも最近まではエビデンスに乏しかったといえる。

前立腺肥大症に関しては、MTOPS study が長期にわたる研究の結果、前立腺肥大は前立腺肥大症の臨床的進行、急性尿閉の発生、前立腺関連手術への移行などの明らかなリスク因子であり、5ARI である finasteride により前立腺肥大の軽減を図ることでこれらのリスクが低下し、doxazosin との併用に臨床的な意義のあることを示した。この結果は dutasteride と tamsulosin を用いた CombAT study でも最近証明された。

一方、前立腺癌に関しても 5ARI の臨床的な意義が 5ARI を用いた化学予防の研究から明らかになってきている。Finasteride と用いた PCPT trial あるいは dutasteride を用いた REDUCE study とともに、一部の前立腺癌の発生が 20-25% 抑制されることを示した。ただし、この抑制効果は Gleason score (GS) 6 以下の癌で顕著であり、GS 7 以上の癌ではその効果が乏しいことも示された。

本講演では、わが国で初めて 5ARI の dutasteride 使用可能になったことを踏まえ、主に前立腺肥大症および癌に対する 5ARI による治療という面から話題を提供したい。

<略歴>

1973年札幌医科大学医学部卒業。1973年札幌医科大学医学部研究生 (泌尿器科学講座)、1977年同助手、1983年同講師。1983年~1985年米国 Mayo Clinic 泌尿器科 Research fellow。1986年札幌医科大学医学部助教授 (泌尿器科学講座)、1995年同教授、現在に至る。

主な研究領域は、尿路器性癌、前立腺肥大症・下部尿路機能、尿路感染症・性感染症、Andrology (泌尿器科内分泌学、男子不妊症)、男子性機能、腎移植。

LH-RH誘導体 マイクロカプセル型徐放性製剤

創薬、処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

リュプロリン 注射用 3.75
リュプロリンSR 注射用キット 11.25

(注射用リュプロレリン酢酸塩)

◆効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

(資料請求先)
武田薬品工業株式会社
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

(1003)T

健康未来 創ります

日本新薬

〒601-8550 京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14
<http://www.nippon-shinyaku.co.jp>

gsk GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer

私たちは、世界中の人々がより充実して心身ともに健康で長生きできるように、生活の質の向上に全力を尽くすことを企業使命とします。

グラクソ・スミスクライン株式会社
<http://glaxosmithkline.co.jp>